

国指定濤沸湖鳥獸保護区
濤沸湖特別保護地区
指定計画書
(環境省案)

平成 年 月
環境省

1 特別保護地区の概要

(1) 特別保護地区の名称

濤沸湖特別保護地区

(2) 特別保護地区の区域

濤沸湖の平均水位の水際線に囲まれた区域及びこれに隣接する河川敷地の区域（道道栄浜小清水線の道路敷地の区域を除く。）

(3) 特別保護地区の存続期間

平成 24 年 10 月 1 日から平成 44 年 9 月 30 日まで（20 年間）

(4) 特別保護地区の指定区分

集団渡来地の保護区

(5) 特別保護地区の指定目的

当該区域は北海道有数の水鳥類の渡来地（渡りの中継地）であり、オオハクチョウ、オナガガモ等のガン・カモ類やシギ・チドリ類が数多く飛来する。当該区域では、鳥類 45 科 218 種、獣類 5 科 6 種が確認されている。環境省が作成したレッドリストに掲載されている絶滅危惧ⅠA類のヘラシギやカラフトアオアシシギ、絶滅危惧ⅠB類のオジロワシ、コシャクシギ、絶滅危惧Ⅱ類のタンチョウ、オオワシ等も飛来するなど、鳥類の生息状況は極めて良好である。

このように、当該区域はこれらの絶滅のおそれのある鳥類を含めた多様な渡り鳥の採餌及び休息の場として利用されていることから、当該区域を集団渡来地の保護区として、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律（平成 14 年法律第 88 号）第 29 条第 1 項に規定する特別保護地区に指定し、当該区域に渡来及び生息する渡り鳥及びその生息地の保護を図るものである。

2 特別保護地区の保護に関する指針

(1) 保護管理方針

- 1) 鳥獣のモニタリング調査を通じて、当該区域内の鳥獣の生息状況の把握に努める。
- 2) 鳥獣の生息環境を脅かすような人の不用意な行動、ごみの散乱等による鳥獣の生息への影響を防止するため、現場の巡視及び関係地方公共団体、NPO、地域住民等と連携した普及啓発活動等に取り組む。

3 特別保護地区の区域に編入しようとする土地の地目別面積及び水面の面積

総面積 1,120 ha (900 ha)

内訳

ア 形態別内訳

林野	— ha
農耕地	225 ha (0 ha)
水面	859 ha (900 ha)
その他	36 ha (0 ha)

イ 所有者別内訳

国有地 — ha

国有林 — ha	{	林野庁所管 — ha	{	制限林 — ha
		文部科学省所管地 — ha		普通林 — ha
国有林以外の国有地	— ha			

地方公共団体有地 — ha	{	都道府県有地 — ha
		市町村有地等 — ha

私有地等	261 ha (0 ha)
公有水面	859 ha (900 ha)

ウ 他の法令（条例を含む）による制限区域

自然環境保全法による地域 — ha	自然環境保全特別保護地区 — ha
	自然環境保全普通地域 — ha
自然公園法による地域 1,079 ha (900 ha)	特別保護地区 — ha
(名称：網走国定公園)	特別地域 1,079 ha (900 ha)
	普通地域 — ha
文化財保護法による地域 — ha	

4 指定区域における鳥獣の生息状況

(1) 当該区域の概要

ア 特別保護地区の位置

当該地域は、北海道北東部オホーツク海沿岸に位置し、網走市と斜里郡小清水町にまたがり所在する濤沸湖の水面及びその湖岸周辺の湿地帯の区域である。

イ 地形、質等

濤沸湖は、北岸の砂州が発達してオホーツク海と隔てられた潟湖であり、最大水深 2.5m、平均水深 1.1mの汽水湖である。北岸の砂州は浜小清水から北浜に至り、延長 7.5km、幅 300m、高さ 15mにおよぶ。この湖の南側は、標高 10mから 20mの丘陵地となっており、その殆どは畑地となっている。浦士別川、オンネナイ川、丸万川等の小河川が流入し、湖の北西端にあたる北浜地区に海とつながる細い水路が開口している。

ウ 植物相の概要

湖岸の大部分は湿地帯で、ヒオウギアヤメ、エゾオオヤマハコベ、センダイハギ、ヤナギトラノオ、サワギキョウなどが多く見られる。また、一部では海水の影響が見られ、オオシバナ、ウミミドリ等の塩湿性の植物が見られる。北岸の砂州の一部は原生花園となっており、エゾキスゲ、エゾスカシユリ、ハマナス等が見られる。湖岸に残されたハンノキ林及びヨシ群落にはカラフトノダイオウ、ハナタネツケバナといった希少性の高い植物が生育する。

エ 動物相の概要

当該地域は北海道有数の水鳥類渡来地（渡りの中継地）であり、オオハクチョウ、オナガガモ等のガン・カモ類やシギ・チドリ類が数多く飛来する。当該区域では、鳥類 45 科 218 種、獣類 5 科 6 種が確認されている。環境省が作成したレッドリストに掲載されている絶滅危惧ⅠA類のヘラシギやカラフトアオアシシギ、絶滅危惧ⅠB類のオジロワシ、コシャクシギ、絶滅危惧Ⅱ類のオオワシ等が確認されている。これらの渡り鳥は、濤沸湖を渡りの中継地として利用し、濤沸湖の湖面や中州、湖岸の畑地等を採餌や休息の場として利用している。ガン・カモ類は冬季でも結氷しない河口域の湖面を利用して越冬する個体もいるが、多くは秋期は11月中旬頃まで滞在し、その後南下し、春期は5月頃まで滞在し、その後北上する。また、当該区域に含まれる湿地帯には、生息数は少ないものの絶滅危惧ⅠB類のオジロワシ、絶滅危惧Ⅱ類のタンチョウ等の営巣が確認されている。

(2) 生息する鳥獣類

別表のとおり

(3) 当該地域の農林水産物の被害状況

なし

5 鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律第 32 条の規定による補償に関する事項
当該区域において、法律第 32 条に規定する損失を受けた者に対しては、通常生ずべき
損失を補償する。

6 施設整備に関する事項

- | | |
|---------------|------|
| (1) 特別保護地区用制札 | 10 本 |
| (2) 案内板 | 2 基 |